

様式 1

授業科目 医療統計学

科目コード番号

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2～3年	対象学科	理学・作業・言語・栄養・社会
	開講時期	前期	必修・選択	2必・3選・2必・3必・2選
	単位数	1	時間数	15

【概要及び学習目標】

<概略>

医療統計学という、厳密な概念派内。ただし、保健・医療分野で応用される統計学は、他とは異なり独特の用語や定義を用いている。したがって、それらの概念や用法を適用することは、保健・医療の専門家にとって不可欠であるために、一部の学科では必須になっており、EBM (Evidence-based Medicine) の基礎を学習する。

<学習目標>

一般目標：証拠に基づいた医療であるEBM (Evidence-based Medicine) を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。

- 行動目標：1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。  
 2. 疫学調査における前向き・後ろ向き調査方法の利点と欠点を区別できる。  
 3. 正しい統計学的な検定方法を選択できる。  
 4. レポートを書く際に、修得した統計学的検定方法を適用できる。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	記述疫学	記述疫学の調査方法、まとめ方と評価方法について学ぶ。	講義
2	分析疫学	分析疫学の調査方法、まとめ方、記述疫学との違いを学ぶ。	同上
3	疫学調査の各種指標	疫学調査で用いる各種統計指標を学び、統計学的に評価してみる。	講義と演習
4	粗率と訂正率	人口構成その他の違いによる率の調整方法を学び、 SMR (Standardized Mortality Ratio、標準化死亡比) を計算してみる。	講義と演習
5	罹患率と有病率	罹患率、有病率、人年法など保健・医療分野独自の率について学ぶ。	講義と演習
6	敏感度と特異度	スクリーニング検査における各種手法とその評価方法を学ぶ。	講義と演習
7	生命表と生存分析	治療成績の比較の際によく用いられる、生存分析を適用するために、 基礎となる生命表関数やその評価方法を学び、生存率を計算してみる。	講義と演習

【評価方法】

- 途中から数回小レポートを提出してもらって、評価した上で返却する。
- レポートのみでは用語の理解度が不明なので、試験期間中に知識を問う小テストを実施する。

【履修上の留意点】

- 1年時の「数理科学概論」と同じテキストを用いる。履修した学生は「演習」も含めて両方履修するとよい。
- 「医療統計学演習」のみの履修は認めないが、「医療統計学」のみの履修は認められる。ただし、両方履修する方が望ましい。

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	医療統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷 ¥2500+税
参考書				
その他 (プリント等)	毎回レジュメを配布する予定である。			